

平成15(2003)年度 日本語一般コース報告

留学生センター 畝田谷 桂 子

1. はじめに——日本語一般コースとは？

「日本語一般コース」とは、本学の全ての外国人留学生、外国人研究者、その家族を対象とした、いわゆる日本語課外補講を核とする日本語授業群である。内容は1学期ごとに完結し、学生はあらかじめプレースメントテストで指定されたレベル内において、各々の日本語能力と時間の余裕に応じて、授業を必要なだけ選択して取ることができる。能力別に初級から上級の授業が提供され、技能別の授業も設けている。

ただし上級レベルの授業は、共通教育の日本語・日本事情科目（学部正規留学生の必修科目）を「一般コース」の中で上級レベルとして位置付け、学部正規生以外の上級レベルの留学生や研究者にも受講を許可している。またこの他に、水産学研究科が各学期2科目通年開講している日本語・日本事情（初・中級前半レベル及び初級後半以上のレベル）、農学研究科が前期1科目開講している科学技術日本語（中級後半から上級レベル）についても、共通教育科目と同様に「一般コース」の中でレベルの位置付けを行い、日本語学習機会の選択肢の一つとして、適正レベルの他研究科の学生等にも受講を勧めている。

本稿では、以下に次の順で平成15年度の「一般コース」の実施報告を行う。2. 開講時期、オリエンテーションとプレースメントテスト、3. ホームページ、シラバス、学生による授業評価、4. 2003年度の開講科目状況、5. 各授業の開講場所、受講者数、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍、6. 2003年度の新たな成果、7. 今後の課題

2. 開講時期、オリエンテーションとプレースメントテスト

【1】開講時期

例年4月、10月に新規留学生の多くが鹿児島にやってくるが、渡日時期の状況から、授業開始は毎年全学の正規の授業日程より少し遅くせざるを得ない状況となっている。本年度は、以下の日程で授業を行った。

前期：4/14～7/18（14週間） 後期：10/20～2/16（14週間+2日）

【2】オリエンテーションとプレースメントテスト、日本語プログラムパンフレット

留学生センターでは、前期と後期の始めに丸1日をかけて、大学や生活全般、日本語プログラムについてのオリエンテーション、及び日本語授業選択の目安となるプレースメントテストを実施している。日本語プログラムの説明にあたっては、両学期とも日英語の日本語プログラムパンフレットを配付し、例年どおり、全授業のレベル別リスト及び授業担当者、教科書、授業内容、受講規則及び修了認定規則、教室配置図等を説明した。（パンフレットは前期→『日本語プログラム一般コー

スについて Spring 2003』、『Spring 2003 日本語プログラム一般コース』、後期→『日本語プログラム一般コースについて Fall 2003』、『Fall 2003 日本語プログラム一般コース』)

本年度のオリエンテーションとプレースメントテストは前期 4 / 9、後期 10 / 9 に実施し、その後プレースメントテストの追加試験を、オリエンテーション時に受験できなかった学生を対象に前・後期とも 2 回ずつ実施した。(4 / 23, 30, 10 / 22, 29) 上級プレースメントテストはこれとは別に、前・後期とも共通教育初回授業で実施した。プレースメントテストの受験者総数は、前期 61 名、後期 55 名となった(受験者総数には上級テスト受験者(学部正規生等)も含む)。

プレースメントテストには、例年同様初・中級用には筑波大学開発の SPOT B (Simple Performance - Oriented Test) と自作の文法問題、上級用には SPOT A と日本語検定協会の J. Test の一部を使用した。尚、本年度上級では通常のテストの他に、文部科学省メディア教育開発センターの「大学生の基礎学力判定・日本語(プレースメントテスト)」も試用した。

3. ホームページ、シラバス、学生による授業評価

留学生センターでは、2001年度以降【1】留学生センターホームページにおける日本語プログラムの情報の記載、【2】留学生センター所属の専任教官、非常勤及び謝金講師担当授業のシラバス作成及び初回授業での学生への配布、説明【3】学生による授業評価を実施しているが、本年度もこれらを継続実施した。

ホームページ作成に際して、毎回多大な御尽力を頂いている教育学部の中島先生、農学部の佐藤先生にこの場を借りて本年度も厚くお礼を申し上げたい。2003年度も、前・後期とも日本語プログラムのみならず、オリエンテーション情報も含め、オリエンテーション当日に間に合うように、新学期の情報をホームページで流すことができた。

また、留学生センター所属の全授業担当者がシラバス(『日本語プログラム一般コースについて Spring 2003』等に記載されている授業情報より詳細な各授業についての情報)を作成し、各々の初回授業で学生に配布、説明した。各授業のシラバスは、授業開始後留学生センターに集め、いつでも学生や他授業担当者に提示できるようにした。遅れて来日した学生や、興味のある授業について情報を得たい学生に各クラスの詳しい情報を提供できるとともに、講師間の授業情報公開に資している。

さらに留学生センター所属全授業担当者の授業に対して、学生による授業評価を実施、回収した。授業評価にあたり、質問紙は留学生センターで統一したものを作成している。

4. 2003年度の開講科目状況

前年度と今年度の鹿児島大学で開講された全日本語授業の開講科目数状況を表 1 に示す。

(2002年度の表は畝田谷(2002)「平成14(2002)年度日本語一般コース報告」『留学生センター報告書2002』による。)

前年度と比較し、週当たり開講コマ数が年間 7 コマ増えた。これは初級レベルの開講コマ数の増

加と、後期に日韓理工系学部留学生研修コースが開講したことによる。

初級レベルの増加は、受講者の多い初級レベルクラスを細分化して、学習者の到達度にさらに適合した授業を行おうというねらいによる。また受講者数の少なくなる中級2レベルの非漢字圏読解クラスを全レベル向け科目に変更し、学習者の個別ニーズにきめ細かく対応できるクラスとした。

本年度開講した授業科目は、85頁に表2「レベル別開講科目一覧表（前期、後期）」としてまとめた。各授業の担当者、内容、教材等については、学生向けパンフレット『日本語プログラム一般コースについて Spring 2003』、『日本語プログラム一般コースについて Fall 2003』を御覧頂きたい。紙面の都合上ここでは割愛させて頂くことにする。

表1 鹿児島大学日本語授業の開講科目数状況

2003年度

開講部局		レベル	開講コマ数/週		
			前期	後期	
留学生センター	研修コース	初級（集中コース）	14	11	
	日本語課外補講	初級	初級1	10	9
			初級2	8	8
			初級3	3	7
		中級	中級1	10	10
			中級2	7	5
	全レベル向け	0	2		
日韓コース	中級	0	2		
水産学研究科	初・中級	2	2		
農学研究科	中級2	1	0		
共通教育	上級	7	8		
合計			62	64	
前期+後期 総計			126		

- ・留学生センター日本語課外補講開講コマ数には桜ヶ丘日本語クラスを含む。（桜ヶ丘「初級」は日本語課外補講初級1レベル、桜ヶ丘「中級」は中級1レベル）
- ・夏・冬・春季休業中の補講は開講コマ数に含めない。
- ・「初級作文」「たのしい会話」は初級2レベル、「漢字3（後期）」は初級3レベル、「日本文化入門」「漢字圏会話」「中級作文（後期）」は中級1レベル、「異文化理解特別講義（後期）」は研修コースの開講コマ数として数えた。
- ・「漢字1」は研修コースと日本語課外補講初級1レベル双方の開講コマ数に含まれる。
- ・漁業庁依託コースは開講コマ数に含めない。

2002年度

開講部局		レベル	開講コマ数／週	
			前期	後期
留学生センター	研修コース	初級（集中コース）	14	15
	日本語課外 補講	初級	18	19
		中級 1	10	9
		中級 2	7	7
水産学研究科		初・中級	2	2
農学研究科		中級 2	1	0
共通教育		上級	7	8
合計			59	60
前期＋後期 総計			119	

5. 各授業の開講場所、受講者数、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍

前期と後期の各授業の開講場所、受講者数、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍を86～89頁の（表3、4）にまとめた。受講者の特徴を、以下4点について考察する。

【1】受講者数と修了者数

受講者総数は、前期延べ297名、後期延べ301名であった。この中で単位を取得した学生以外で、出席率80%以上、試験得点60%以上の修了条件を満たした修了者数は、前期延べ92名、後期延べ93名であった。昨年度と比べると、前期の受講者が40名増えたほか、修了者数は前期26名、後期22名増えた。

学位取得を目指す多くの大学院生と研究生が、修了できない理由として専門科目の多忙さ、時間割りの重複等を抱えているが、修了条件を満たせなくても可能な限り授業に参加し、日本語そのものの能力を伸ばす努力をしている学生が多い。一方、本学の学位取得を目的としない短期留学生（特別聴講学生、特別研究学生、科目等履修生。以後これらをまとめて「短期留学生」とする。）は修了条件を満たしやすい環境にあり、本年度も修了証または単位を得て帰国することに意欲的であった。

【2】受講者の在籍資格

受講者の在籍資格は、1) 学位取得を目指す大学院生、研究生、学部生、予備教育生が全体の約63.9%を占める（内訳：前期：大学院生29.3%、研究生20.5%、学部生17.2%、予備教育生4.0%、後期：大学院生13.0%、研究生25.7%、学部生13.6%、予備教育生4.3%）2) 次に多いのが短期留学生で、全体の約24.1%（前期16.5%、後期31.6%）、3) さらに家族が全体の約9.9%（前期9.8%、後期10.0%）、4) 研究員が約2.2%（前期2.7%、後期1.7%）である。

昨年度と比較すると、1)～4)の構成比はほぼ同様の傾向であるが、その中で短期留学生が4.4%増加した。後期に前年比10.1%増加しており、これは新たな協定校となった韓国からの短期留学生が増加したことによる。

さらに留学生総数に占める在籍身分別人数割合と、日本語受講者の在籍資格別割合を比較すると以下のようであった。

表5 留学生総数に占める在籍身分別人数割合と、日本語受講者の在籍資格別割合

留学生総数に占める在籍身分別人数割合は平成15年度5/1現在。平成15年度鹿児島大学概要による。

	A. 留学生総数に占める 在籍身分別人数割合	B. 日本語受講者の 在籍資格別割合	B - A
大学院生, 研究生, 予備 教育生, 学部生 (学位取 得目的の留学生)	93.8% (昨年度割合92.0%)	63.9% (昨年度割合67.7%)	-29.9% (昨年度-24.3%)
短期留学生	6.2% (昨年度割合5.3%)	24.1% (昨年度割合19.7%)	+17.9% (昨年度+14.4%)

昨年同様、短期留学生の留学生全体に占める割合は6.2%と少ないが、彼らの日本語授業に占める割合は24.1%と高い。(昨年は日本語の授業の約5人に1人だったが、本年度は約4人に1人の割合になった。)

これは、短期留学生が共通教育や各部局で開講されている科目を受講して理解できるほどの日本語能力がなく、その代わり初・中級レベルの日本語授業を多く取るからだと考えられる。これに対して、学位取得目的の学生が、留学生総数に占める割合に比して日本語受講者に占める割合が少ないのは、彼等が長期滞在であり、滞在期間中初期には日本語授業を取るが、後半になると専門の勉強に比重が置かれ、日本語授業を取らなくなるためであろう。学部生を例にとると、1、2年ですべての日本語科目を履修する必要があるが、この単位を取得すれば、3、4年では履修できる日本語科目が選択肢としてまったくなくない。また大学院生では、多くは非漢字圏の博士過程に見られるが、研究に日本語が必要ない学生もあり、この場合は初級を修了し生活に必要な日本語を身につけた後、来日後比較的短期間で日本語授業から離脱する。

レベル別在籍資格を見ると、本年度も初級では家族の割合が多いが、中・上級ではその割合が激減し、さらに共通教育必修科目である上級では正規学部生が含まれることから、上のレベルに進むに従って学位取得目的の学生の割合が多くなっていることがわかる。

【3】受講者の専門・所属

前期は多い順に、工学18.2%、法文16.5%、教育学15.5%、農学14.1%、理学8.8%、水産学8.0%、医学7.4%、歯学0.7%であった。後期は、工学23.3%、法文16.9%、教育学14.6%、農学14.3%、水産学9.0%、医学6.0%、理学5.0%、歯学0.3%の順であった。

昨年度と比べると法文の受講生割合が多かった。(昨年度前期受講生に占める法文の割合7.7%、後期10.0%)

理系分野は全体の約57.5%(前期57.2%、後期57.8%)となり、一昨年度の78.6%、昨年度の72.1%から大きく減少しているが、依然として全体の半数以上を占めている。

開講場所による受講者の専門では、1) 郡元キャンパスでは、全ての専門の学生が受講しており、2) 桜ヶ丘キャンパスは医学と歯学の学生のみ、3) 下荒田キャンパスでは水産学の学生を主体に工学、農学、教育学の学生も少数受講している、という傾向が一昨年来続いている。

【4】受講者の国籍

最多の中国の受講者は、前期46.8%、後期33.6%であった(通年平均の対前年度比で5.9%減)。第2位の韓国は、後期の伸びが著しい。(前期9.4%、後期15.9%(通年平均の対前年度比で0.9%増)) これら中国、韓国の漢字圏の学生が相変わらず全体の約半数(前期56.2%、後期49.5%)を占めているが、昨年度より比率が減っており、(通年平均の対前年度比で5.7%減) 出身国の偏りが是正される傾向はよいことである。

非漢字圏の学生で多いのはマレーシア、オーストラリア、ミャンマー、インドネシア、バングラデシュである。昨年度多かったタイは減少した。他はアジア、大洋州、南米、アフリカ、中近東各国にわたってばらついている。北米、ヨーロッパ地域からの受講生が極端に少なかったが、本年度はアメリカ、メキシコ、スペイン、イギリス、ドイツの受講生が少数存在した。

【5】その他の分析

紙面の都合上これ以上の分析はここでは省略するが、上記4点の考察の他に、レベル別、授業別の受講者数/修了者数/専門/国籍、授業別在籍資格の分析が可能である。2001年度からまとめているこの受講者の情報は、日本語プログラム全体及び各授業のカリキュラム編成やシラバスを作る上での基礎的な材料となり、その時々々の目的に応じて集計結果を分析して利用することができる。今後も受講者調査の継続が必要である。

6. 2003年度の新たな成果

「平成14(2002)年度日本語一般コース報告」^{註)}に「今後の課題」として掲げた項目についての本年度の取り組みを以下に記す。

6-1. 「短期留学生に対する単位発行問題」と“Study Japan Program”の認可

「短期留学生に対する単位発行問題」は早急に解決すべき問題点であった。背景は、以下の通りである。

交流協定締結校の増加に伴って、短期留学生のうち特別聴講学生が増えているが、日本語が初・中級レベルの留学生は日本人向けの授業は理解できないため、日本語科目(初・中級)を受講することになる。(日本語受講者総数に短期留学生が占める割合は、本年度ほぼ4人に1人の割合である。)しかし留学生センターが開講部局である日本語授業(研修コース及び日本語課外補講、すなわち「一般コース」の大部分の授業。表1参照)は単位発行が認められていない。単位発行のできる日本語科目は共通教育科目(上級レベル、通年週3コマ受講可能)と水産学研究科(初級後半～中級以上、通年週2コマ)、農学研究科(中級後半以上、前期のみ週1コマ)だけである。この状況は日本語未習者にとっては単位が取れる日本語授業がまったくないということであり、日本語既習者

でも単位取得が可能な授業数が非常に少ない上、短期留学生が学部レベルか大学院レベルかによってさらに単位取得可能な科目に制限が加わるようになっていた。

この状況から、短期留学生が母国の大学へ持ち帰れる単位が、学生の授業受講の実態に合わない事態が生じていた。

このような問題を解決するため、今年度留学生センターは短期留学生向けに“Study Japan Program”の実施を提案し、2004年度10月のプログラム開講が認められた。このプログラムでは、留学生センターが開講部局である日本語科目の単位発行が認められ、短期留学生に対する単位発行問題は解決を見ることができた。“Study Japan Program”の詳細については準備中の“Study Japan Program”パンフレット（仮称）を参照されたい。

6-2. 「教育の質の向上に関する問題」と本年度の取り組み

6-2-1 日韓共同理工系学部留学生に対する学部入学前日本語予備教育

本プログラムは本年度第1期生を迎え、学部入学前予備教育を行った。昨年度課題の1であった、はじめての学部入学前日本語教育（日本語一般コースも含む）、また日本語教育と専門教育との関わり等についての取り組みは、別稿90頁及び別冊「日韓理工系学部留学生研修コース報告書（仮称）」を参照されたい。

6-2-2 受講者の在籍資格別日本語学習目的、目標到達度の多様性等への対応

問題の背景は以下の通りである。

大学における勉強や研究に必要な日本語、いわゆるアカデミックジャパニーズが必要な学位取得目的の学部生・研究生・大学院生・予備教育生と、コミュニケーション一般の能力の育成が必要な短期留学生とでは、日本語学習目的が異なり、必要とする教授内容の違いが問題になる。さらに学位取得目的の学生でも、必要とされる到達能力に多様性がある。（論文を日本語で書くことを求められているか否か等。）

教育の質を高めるには、その違いを把握し、日本語プログラム全体として一貫性のある視点でシラバス、カリキュラムを企画することが必要である。教授項目や訓練する技能を各授業に割り振り、学生が個々のニーズに応じて必要な技能の訓練が選択できるようにシラバスやカリキュラムをレベル別、技能別に整えることも必要である。

また、アカデミックジャパニーズについては現在その内容が模索されている段階であり、効果的な教育のためには、その研究成果を踏まえながら必要な教授項目を選定する必要がある。

以上の点を実現するためには、まず留学生センター全ての授業担当者が日本語プログラムを全体として捉えた一貫性のある視点で日本語プログラム全体の受講者のニーズ、教育目的とカリキュラム構成、各授業の教育内容について理解し、担当各授業の受講者のニーズ、プログラム全体の中での担当授業の教育目的の位置づけを認識している必要がある。そのためには、全ての担当者からの各授業やプログラム全体に対しての真摯なフィードバックが常に行われる環境、講師間の勉強会や授業内容及び教育手法についての情報の交換が必要である。

上記の課題を受けて、本年度以下の試みを行った。

6-2-2-1 全体の取り組み

留学生センター全ての授業担当者が、日本語プログラム全体として一貫性のある視点で日本語プログラムを認識するための勉強会として、大阪大学村岡貴子教授の講演「大学における日本語教育の意義・大阪大学日本語プログラムの紹介」を企画した。(第1回鹿児島大学留学生センター日本語教育研究会、2004年2月26日) 民間日本語学校とは異なる、大学における日本語教育の意義とは何かという共通認識を醸成する上で意義ある機会であった。

6-2-2-2 初級の取り組み

複数の担当者が一つのクラスを分担して共同で教える初級では、従来どおり学期開始時や学期中、適宜コース運営等についての話し合いを持ち、授業担当者からのフィードバック、情報交換に努め、共通理解をさらに深めた。また、クラスごとに電子メールアドレスを取得し、授業報告、その他連絡を掲示したことにより、担当するクラス以外の進捗状況をすべての初級担当者が把握することができた。また、互いの授業を見学しあい、その後意見交換をするといった研修も定着してきた。さらに、学生が自宅学習できる教材を授業担当者が協力して共同製作した。

6-2-2-3 中級の取り組み

中級では学期終了時に、担当授業の授業報告(総授業数、教科書、副教材、授業内容、力点を置いて習得させたかった事及びそのための工夫、授業目的の達成度、次の担当者へのアドバイス等)の提出を実施した。その上で学期初めに各授業担当者全員による打ち合わせを行い、各科目の授業報告、問題点、受講学生一覧表(成績)等の情報を交換し、共通理解を深めた。初級とは異なり、独立した技能別授業の集まりである中級レベルでは、この試みは授業担当者が日本語プログラム全体として一貫性のある視点を持ち、その中で各自の授業を捉える上で意味があった。また、前期にはコーディネーターが授業を見学し、各担当者と意見交換及びフィードバックを行った。

6-2-2-4 上級の取り組み

本年度前期から、上級(日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を通年の一貫性のある学習機会として捉え、学部正規留学生の日本語ニーズと必要な技能を考えた共通シラバスを作成、授業担当者4人の各授業で共通に使用した。以前はたがいにつながりのなかった4種の授業が、総体としてまとまりのあるものとなり、週2コマ、通年4コマの授業で扱うべき内容、技能を選別し、明らかにすることができた。

7. 今後の課題

今後の課題は、1)“Study Japan Program”実施に向けた具体的な整備、2)「6-2-2 受講者の在籍資格別日本語学習目的、目標到達度の多様性等への対応」で述べた問題点を改善する試みを継続することである。授業担当者全員の協力を得ながら、有酸素運動的な長い取り組みと考えると、息切れせずに地道な積み重ねを一步一步根気よく続けていくことが大切であると考えている。

【注】畝田谷(2003)「平成14(2002)年度日本語一般コース報告」『留学生センター報告書2003』、PP.27-39

表2 レベル別開講科目一覧表
平成15年度前期

★印科目は留学生センターの専任教官／非常勤／謝金講師が担当
留学生センターの開講科目は単位の発行ができない。


開講部局	開講場所	レ ベ ル					
		初 級			中級 1	中級 2	上 級
留学生センター	郡元 (楽しい 会話は 国際交 流会館)	★研修コース(集中コース)			★中級会話 1 ★非漢字圏読解 1 ★漢字圏読解 1 ★中級作文 1	★中級会話 2 ★非漢字圏読解 2 ★漢字圏読解 2 ★中級作文 2	
		★初級 1	★初級 2	★初級 3			
	★漢字 1	★初級作文 ★楽しい会話		★漢字圏会話中級 ★日本文化入門			
	桜ヶ丘	★初級		★中級			
共通教育	郡元					★日本語Ⅰ ★日本語Ⅱ ★日本事情A ★日本事情C	
水産学 研究科	下荒田	日本語日本事情Ⅰ					
		日本語日本事情Ⅱ					
農学 研究科	郡元					★科学技術日本語	

平成15年度後期

開講部局	開講場所	レ ベ ル					
		初 級			中級 1	中級 2	上 級
留学生センター	郡元 (楽しい 会話は 国際交 流会館)	★研修コース(集中コース)			★中級会話 1 ★非漢字圏読解 1 ★漢字圏読解 1	★中級会話 2 ★非漢字圏読解 2 ★漢字圏読解 2	
		★初級 1	★初級 2	★初級 3 ★初級 3応用			
		★漢字 1	★漢字3★初級作文 ★楽しい会話		★中級作文	★漢字圏会話中級	
		★異文化理解特別講義				★日本文化入門 ★日韓理工系特別クラス	
	★日本語ワークショップ						
	桜ヶ丘	★初級		★中級			
共通教育	郡元					★日本語Ⅲ ★日本語Ⅳ ★日本事情B	
水産学 研究科	下荒田	日本語日本事情Ⅰ					
		日本語日本事情Ⅱ					


表3 各授業の開講場所、受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属
平成15年度前期

科 目	開講場所	受講者数		性別		修了者数	受講者の在籍資格				専門・所属											
		男性	女性	男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等	農学	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	他大学
初級1		13	2	11	3	0	0	8	0	0	0	5	1	0	0	2	3	1	0	1	0	0
初級2		15	5	10	10	0	3	5	0	3	0	4	1	0	0	4	2	2	0	2	0	0
初級3		17	8	9	12	0	5	4	0	5	0	3	4	0	0	5	2	1	0	2	0	0
初級作文		11	4	7	5	0	1	6	0	2	0	2	2	0	0	2	4	1	0	0	0	0
漢字1		15<12>	12	3	15	0	0	2	12	0	0	1	4	2	1	1	0	0	0	3	3	0
中級会話1		15	6	9	6	0	5	3	0	3	1	3	3	0	0	2	2	4	0	1	0	0
中級作文1		3	1	2	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
非漢字圏読解1		5	3	2	2	0	2	0	0	2	0	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0
漢字圏読解1		7	2	5	4	0	4	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	3	0	1	0	0
漢字圏会話		5	1	4	5	0	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0
中級会話2		16	5	11	8	0	9	5	0	1	0	1	4	1	0	1	3	4	0	2	0	0
中級作文2		9	4	5	4	0	5	4	0	0	0	0	2	0	0	0	2	4	0	1	0	0
非漢字圏読解2		3	2	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	1	0
漢字圏読解2		14	4	10	6	0	8	4	0	1	1	0	3	1	0	1	3	5	0	1	0	0
日本文化入門		11	4	7	9	0	3	3	0	3	1	1	2	0	0	1	2	3	0	2	0	0
科学技術日本語		9	7	2	1	0	8	0	0	1	0	0	7	0	0	0	0	1	0	1	0	0
日本語I*		21	12	9	1	13	2	1	0	5	0	0	0	0	2	2	8	6	2	0	1	0
日本語II*		23	12	11	1	13	2	2	0	6	0	0	0	0	2	2	8	5	4	0	2	0
日本事情A*		21	10	11	1	13	1	1	0	6	0	0	0	0	2	2	7	6	2	0	2	0
日本事情C*		17	10	7	0	12	1	0	0	4	0	0	0	0	2	0	6	3	3	1	2	0
たのしい会話		14	8	6	6	0	2	6	0	3	0	3	3	0	0	2	3	2	0	1	0	0
郡元キャンパス小計		264	122	142	87	51	64	57	12	47	6	27	41	12	7	52	49	46	1	26	3	3
日本語・日本事情I		10	8	2	4	0	8	1	0	1	0	0	1	8	0	1	0	0	0	0	0	0
日本語・日本事情II		5	3	2	1	0	4	1	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0
下荒田キャンパス小計		15	11	4	5	0	12	2	0	1	0	0	1	12	0	2	0	0	0	0	0	0
初級会話		9	3	6	9	0	4	1	0	1	1	2	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
中級会話		9	5	4	9	0	7	1	0	0	1	0	0	0	8	0	0	0	1	0	0	0
桜ヶ丘キャンパス小計		18	8	10	0	0	11	2	0	1	2	2	0	0	15	0	0	0	1	0	0	0
総計		297	141	156	92	51	87	61	12	49	8	29	42	24	22	54	49	46	2	26	3	3

注) 1 数字は延べ数。
 2 *印の科目は共通教育科目。
 3 網かけは単位発行ができない学生の修了者数。
 4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
 5 <>は内数で研修コース生。
 6 専門・所属：研修コースの学生はそれぞれの専門によって分類。

平成15年度後期

科 目	開 講 場 所	受講者数	性 別		修了者数	受 講 者 の 在 籍 資 格						専 門 ・ 所 属											
			男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等	農学	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	多国籍	不明	
初級1		19	11	8	11	0	0	0	6	0	4	1	8	0	0	1	5	0	2	0	2	1	0
初級2		16	13	3	11	0	1	11	0	2	0	0	2	5	2	0	2	1	0	0	4	0	0
初級3		10	8	2	6	0	1	4	2	2	1	0	3	1	0	3	1	1	0	1	0	1	0
初級作文		5	3	2	2	0	1	2	0	2	0	0	1	0	1	0	1	0	1	2	0	0	0
漢字1		14<1>	9	5	12	0	0	2	1	7	1	3	6	0	0	2	0	1	0	1	0	1	1
漢字3		13	7	6	5	0	0	6	0	6	0	1	5	0	0	3	1	2	0	1	0	1	0
初級3文法		11	8	3	5	0	0	5	0	6	0	0	3	1	0	2	2	3	0	0	0	0	0
中級会話1	総合教育研究棟	16	9	7	7	0	2	3	2	5	1	3	2	1	0	5	2	2	0	1	0	1	0
非漢字圏読解1		7	3	4	5	0	0	2	0	5	0	0	1	0	0	3	1	2	0	0	0	0	0
漢字圏読解1		5	3	2	5	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0
中級作文		18	7	11	6	0	0	5	2	8	0	3	2	0	0	6	3	4	0	0	0	0	0
漢字圏会話		10	5	5	3	0	1	4	0	4	0	1	1	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0
中級会話2		8	2	6	2	0	1	3	0	3	0	1	1	0	0	2	1	3	0	0	0	0	0
漢字圏読解2		5	3	2	1	0	2	1	0	1	0	1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
日本文化入門		8	5	3	2	0	0	3	2	2	0	1	2	0	0	3	1	2	0	0	0	0	0
日韓理工系特別クラス	共通教育3号館	2	2	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
日本語III*		35	13	22	4	13	6	4	0	12	0	0	3	3	2	8	12	5	0	2	0	2	0
日本語IV*	共 通 教 育 1号館	33	14	19	4	14	4	5	0	10	0	0	3	3	2	10	10	4	0	1	0	1	0
日本語事情*		26	11	15	2	14	0	2	0	10	0	0	3	3	7	9	3	0	1	0	1	0	0
たのしい会話	国際交流会館	10	6	4	2	0	0	4	0	3	1	2	4	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0
郡元キャンパス小計		271	142	129	93	41	19	73	13	93	5	27	43	14	9	68	51	42	0	15	2	0	0
日本語・日本事情I		11	8	3	0	0	9	1	0	1	0	0	0	0	9	0	1	0	1	0	0	0	0
日本語・日本事情II	水産学研究所	6	3	3	0	0	4	1	0	1	0	0	0	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0
下荒田キャンパス小計		17	11	6	0	0	13	2	0	2	0	0	0	0	13	0	2	0	2	0	0	0	0
初級会話	医 学 部	4	1	3	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
中級会話	国際交流室	9	3	6	0	0	6	2	0	0	0	1	0	0	7	0	0	0	1	0	0	0	0
桜ヶ丘キャンパス小計		13	4	9	0	0	7	3	0	0	0	3	0	0	9	0	0	0	1	0	0	0	0
総 計		301	157	144	93	41	39	78	13	95	5	30	43	27	18	70	51	44	1	15	2	0	0

注) 1 数字は延べ数。
 2 *印の科目は共通教育科目。
 3 網かけは単位発行ができない学生の修了者数。
 4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
 5 <>は内数で研修コース生。
 6 専門・所属：研修コースの学生はそれぞれの専門によって分類。

平成15年度後期

国	籍	科																		目									
		初級1	初級2	初級3	初級作文1	漢字1	漢字3	初級3文法	中級会話1	中級作文	非漢字圏読解	漢字圏読解	中級会話2	漢字圏読解2	漢字圏会話	日本語III	日本語IV	日本語事情B	日本文化入門	日韓理工系	たのしい会話	郡元キャンパス小計	日本語・日本事情I	日本語・日本事情II	下田キャンパス小計	初級	中級	後ヶ丘キャンパス小計	国別人数
中国		4	4	2	1	0	4	3	6	7	0	2	4	3	6	15	15	10	2	0	2	90	3	2	5	2	4	6	101
韓国		0	0	2	0	0	1	3	0	3	0	0	0	0	3	9	9	9	3	2	0	47	0	0	0	0	1	1	48
インドネシア		3	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3	2	5	0	0	0	12
ブラジル		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6
コロンビア		1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1	1	7
オーストラリア		2	0	1	2	0	1	2	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	2	19	0	0	0	0	0	0	19
ミヤンマー		0	2	1	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	1	1	2	0	1	1	13	
タイ		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	1	5
バン格拉デシュ		0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	1	0	1	0	1	2	0	7
エジプト		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2
カメルーン		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	2
コートジボアール		0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
アルゼンチン		0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
ナイジェリア		1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
タンザニア		0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
ヨルダン		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
コンゴ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
バブアニューギニア		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
ペルー		0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	0	1	0	0	4
マレーシア		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	13
アメリカ		1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
パキスタン		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	3
台湾		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1
イラン		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
ベトナム		2	0	0	0	2	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	12
スペイン		1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
イギリス		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
ドイツ		0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	6	1	1	2	0	0	0	0	8
ラオス		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
フィジー		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
受講者総数		19	16	10	5	14	13	11	16	18	7	5	8	5	10	35	33	26	8	2	10	271	11	6	17	4	9	13	301